

自然体のピアノイズムから紡ぎ出されるラーンキ独自の世界

デズー・ラーンキ ピアノ・リサイタル

"変ロ長調のコンサート" *Konzert des B-dur*

©Palace of Arts - Budapest, Szilvia Csibi

2017年

11/14(火)19:00 フィリアホール

PHILIA HALL

入場料: S=5,000円 A=4,000円

主催: ヒラサ・オフィス

共催: 青葉区民文化センター フィリアホール

モーツァルト

ピアノ・ソナタ 変ロ長調 KV570

Mozart: Sonate B-dur KV570

シューマン

フモレスケ 変ロ長調 op.20

Schumann: Humoreske B-dur op.20

ブラームス

ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ 変ロ長調 op.24

Brahms: Variationen und Fuge über ein Thema von Händel B-dur op.24

【メンバーズ先行予約締切】

6/10(土) (Webは前日18:00まで)

【一般発売】

7/2(日)11:00 ※発売日は電話・Webのみ受付

お申込み・お問合せ: フィリアホールチケットセンター

045-982-9999 取扱時間11:00~18:00

<http://www.philiahall.com/> <24時間オンライン予約>

<http://www.philiahall.com/mobile/> <モバイルサイト>

※青葉台東急スクエアの駐車券のサービスはございません。※車椅子席をご希望の方は、チケット申込の際お知らせください。

11/24(金)19:00 トップアンホール

入場料: 6,000円(全席指定)

主催: ヒラサ・オフィス

ハイドン

ピアノ・ソナタ 変ロ長調 Hob.XVI: 41

Haydn: Sonate B-dur Hob.XVI: 41

ブラームス

ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ 変ロ長調 op.24

Brahms: Variationen und Fuge über ein Thema von Händel B-dur op.24

シューベルト

ピアノ・ソナタ 変ロ長調 D960

Schubert: Sonate B-dur D960

6月1日(木)一般発売

チケットのお申込み:

トップアンホールチケットセンター 03-5840-2222 <http://www.toppanhall.com/>

ヒラサ・オフィス 03-5429-2399

e+(イープラス) <http://eplus.jp>

チケットぴあ <http://pia.jp/t/> 0570-02-9999 [Pコード 331-285]

お問合せ: ヒラサ・オフィス 03-5429-2399

※曲目・出演者などやむを得ず変更させていただく場合がございます。※未就学児の入場はお断りいたします。

Dezso
Ránki
Piano Recital

ランキの"変口長調のコンサート"までの歩み 萩谷由喜子(音楽評論家)

ハンガリーという国は、かつてフランツ・リスト(1811-1886)という古今のピアノ界きっての大スターを生んだが、そのあとはヨーゼフ・ヨアヒム(1831-1907)、レオポルド・アウアー(1845-1930)、オタカル・シェフチック(1852-1934)、イエーネ・フーバイ(1858-1937)、カール・フレッシュ(1873-1944)、ヨーゼフ・シゲティ(1892-1973)、イェリー・ダラニ(1993-1966)、シャンドール・ヴェーグ(1912-1997)、ヨハンナ・マルツィ(1924-1979)らを輩出して、ピアニストよりはむしろヴァイオリニストの一大鉾脈として知られていた。

そのハンガリー音楽界に1970年代、フレッシュな3つのピアノの新星が輝きだしたのだから一気に世界的な注目が集まった。1951年生まれのデジュ・ランキ、52年生まれのリサ・コチシュ、53年生まれのアンドラーシュ・シフの3人である。ランキは69年のロベルト・シューマン国際コンクールに優勝して脚光を浴び、コチシュはハンガリー国営放送主催コンクール優勝者、シフはチャイコフスキー、及びリーズ国際コンクールの上位入賞者だった。3人は75年から77年にかけて相次いで初来日を果たし、「ハンガリーの三羽鳥」と呼ばれて人気を沸騰させ、妙齡の女性ピアノ・ファンをランキ派、コチシュ派、シフ派に三分して、誰もがもっともまいか、演奏がスタイリッシュか、姿かたちが魅力的かといった議論を白熱させた。

なかでも、すりとした細身で端正な顔立ちのランキは多くのファンを集めた。ランキ自身も当時のことを振り返っているが、行く先々で女性ファンに取り囲まれ、握手やサインを求められ、花束や贈り物責めにされたそう。でも、本人はなぜこんなに持て囃されるのか不思議で、コンクールは始まりに過ぎないのに、と感じていたという。8歳という遅めの年齢からピアノを始めたランキは、それをハンディとは思っておらず、「芸術には時間が必要、人生のさまざまな出来事が音楽へとつながっていく」という持論の持ち主だ。きつと若い頃からその信念があったのだろう。

やがて「三羽鳥」時代は去り、3人の針路は分かれていく。シフは80年代にイギリスのデッカ・レーベルと契約を結び、モーツァルトのピアノ・ソナタ全集の録音によって高い評価を得たのに続き、一連のバッハ録音でも名声を博す。室内楽分野でも活躍し、歌曲伴奏ではペーター・シュライアーやロベルト・ホルといった大物歌手と共演した。つい最近の来日公演では、名前に「サー」が冠されていたので、大英帝国から大きな栄誉を授けられていることが理解された。

コチシュはヴィルトゥオゾ路線を歩み、リストやラヴェルの難曲を軽々と弾き、お得意の作曲手腕を駆使したワーグナー・オペラのトランスクリプション録音も手掛ける一方、イヴァン・フィッシャーとともにブダペスト祝祭管弦楽団を設立して指揮者としての活動も開始した。1997年からはハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務めたが、手兵を率いての来日公演を目前にして2016年11月に惜しくも逝去した。

この二人の華やかな活躍の陰に隠れがちだったのがランキで、一時期、彼の消息はあまり日本に伝わってこなかった。89年のハンガリー民主化の波の影響もあったようだ。

筆者は2010年の久々の来日公演に際してプログラム・ノート執筆を依頼され、非常に懐かしい名前を聞いた気がして、リサイタルが待ち遠しかった。

いよいよ当日がきて会場に足を運ぶと、ハイドンのソナタはみずみずしい生命力にあふれ、リストの減多に演奏されない小品類は各曲の性格や場面に応じてピアノが人の声のように語り、情熱を秘めて歌い、あるいは踊りの情景を軽やかに描き出すのに驚いた。もっともヴィルトゥオゾジティーに満ちているはずのリストの口短調ソナタも、技巧の披露とは無縁の、あくまでも作曲者の意図を尊重した無私の境地で奏されて、作品の持つロマンや情念、葛藤と救済のテーマが聴き手に虚飾なく伝えられたのに感動した。

もともと、彼の表現志向には外面的華やかさを狙う気持ちや、ましてやテクニックで聴き手を威圧しようとするところがまったくないのに加え、長い熟成の時間がこのような心に染み入る演奏を生み出したのだろう。

近年の彼は妻のエディット・クルコンとの2台ピアノや、息子のフェロップも加えた3台ピアノでも新たなファンを獲得しているが、今秋は2種プログラムによるソロ・リサイタル数公演が予定され、彼の円熟のピアニズムを堪能できるまたとないチャンス到来である。

「プログラム作りも大きな楽しみ」と語る彼は、今回の2種リサイタルを「変口長調のコンサート」と題し、モーツァルトのピアノ・ソナタ変口長調 KV570、シューマンの「フモレスケ」、ブラームスの「ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ」、ハイドンのピアノ・ソナタ 変口長調 Hob.XVI:41、シューベルトのピアノ・ソナタ 変口長調 D960と、すべてこの調の曲目だけでプログラムを構成した。それぞれの作曲家が変口長調に寄せたさまざまな思いを、ランキなら私心なく代弁してくれるに違いない。

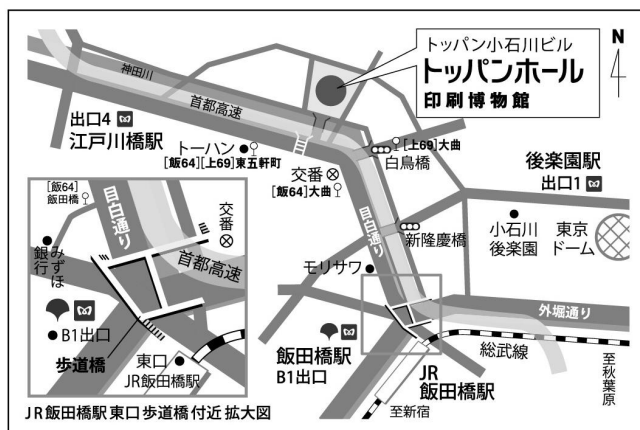


©Takashi Iijima



PHILIA HALL

青葉台東急スクエアSouth-1 本館5階(東急田園都市線青葉台駅徒歩3分)
〒227-8555 横浜市青葉区青葉台2-1-1



交通のご案内

江戸川橋駅 地下鉄有楽町線(4番出口)より徒歩約8分
飯田橋駅 JR総武線(東口)、地下鉄有楽町線、東西線、南北線、大江戸線(B1出口)より徒歩約13分
後楽園駅 地下鉄丸ノ内線、南北線(1番出口)より徒歩約10分
都営バス 上69 飯64 大曲 または 東五軒町 下車徒歩約3分
※地下駐車場をご利用いただけます。(ホールご来場者割引あり)

トッパンホール

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3 Tel:03-5840-2200 Fax:03-5840-1515
E-mail:info@toppanhall.com http://www.toppanhall.com/